

—過去から現在そして未来へ—

伝統のわざを 伝える



ガラスに細かいカットを刻む（江戸切子）

「伝統工芸展2010」は、そのような「わざ」をご覧いただける数少ない機会です。
ぜひご来場いただき、職人さんの技を通して、本物の良さを体感してください。

その技術は、国、地域の文化の基礎をなすものといえ、機械で大量に生産されるものとは違います。長い時間をかけ、技術を習得した人々だけにしか生み出せない本物のわざであり、本展に登場する職人さんの技は、まさに歴史を支えてきた技術なのです。その作品は、一つひとつ時間をかけて「生み出した」心のこもったもので、細かいところまで伝統の技術が生かされています。

数百年もの長い間、人からひとへと受け継がれ、現代に伝えられてきた技術は、まさに日本における「ものづくり」の原点といえます。

「伝統のわざ」ってなに？このような疑問の答えを見つけ出す、それが伝統工芸展の場です。

2月5日（金）
2月7日（日）

伝統工芸展 2010
開催

下町文化

NO. 248
2010.01.14

発行
江東区地域振興部
文化観光課文化財係
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9819
<http://www.city.koto.lg.jp/>

- 江東区伝統工芸展 2010
—過去から現在そして未来へ—
伝統のわざを伝える
- 平成 21 年度芭蕉記念館企画展
俳文学者の写した「奥の細道」
—久富哲雄のファインダーを通して—
- 平成 21 年度
中川船番所資料館 収蔵資料展
- 八百八町調査隊 大江戸を掘る！
千田遺跡 武家屋敷跡を掘る
- 江東今昔（8）
- 旧大石家住宅日記⑩

2010年 2月5日(金)～7日(日)

伝統工芸展 2010

今年度の伝統工芸展は、区民のみなさんに職人さんのもっている「技」を見ていただくため、実演に重きを置いたものとなっています。

その作品は、技術を駆使してできるものです。無形文化財(工芸技術)としては、ものを作る技術がとても重要なのです。

また、「見るだけでは満足できない」

という方のために、毎日2～3の職種で体験もできます。いずれも江東区の無形文化財保持者で、「伝統のわざ」を受け継ぐ方々です。数少ない機会ですの、ぜひその技を身近に感じてください。

会場では、職人さんによる作品販売もあります。会話を通して、楽しいひと時をお過ごしください。

体験をしてみよう

職人さんに「入門」してみませんか。今回の伝統工芸展では、体験ができる職種がいくつかあります。ご来場くださる皆様に、少しでも「職人の世界」を体験してもらいたいという気持ちから設けられています。短い時間ですが、「世界でひとつ」だけの作品を、ご自分で作ってみてください。きっと愛着がわくと思います。

申込は、会場で直接職人さんへ。何を作るかは、当日のお楽しみです(実費負担)。



体験できます(更紗染)

■見て・聞いて・聞いて

ここでは、今回の伝統工芸展の「見どころ聞きどころ」について、お話しいたします。

実演時間

まず、昨年までと大きく異なるのは、実演時間です。昨年までは、職人さん1人に対して、2時間という枠が設けられていました。しかし、今回は、午前10時から午後4時まで、一人の職人さんが実演を続けて行います。時間内であれば、何時に来場されても同じ技術を見ることが出来ます。いままでのように、時間にあわせて来場する必要はありません。

実演する職人さんは、日程にあるとおり、1日7名(最終日のみ6名)です。みなさん、長い経験を通して伝統的な技術を体得した、江東区無形文化財の

実演日程

※は、体験(実費負担)できます

2月5日(金) 10:00～16:00

【1階】	【2階】
鉛 細 工 江 戸 切 子※	木 彫 刻※ 紋 章 上 絵 表 具※ 建 具 象 牙 細 工

2月6日(土) 10:00～16:00

【1階】	【2階】
簾※ 染織(無地染)※	石 工 建具(組子)※ 木 彫 刻 手 描 友 禅 染 色 補 正

2月7日(日) 10:00～16:00

【1階】	【2階】
染織(更紗染)※ 江 戸 切 子	木工(指物)※ 刀 剣 研 磨 襖 椽 庖 丁 製 作

【日時】

2月5日(金)～7日(日)
午前10時～午後4時

※入場無料

【会場】

深川東京モダン館

(門前仲町1-19-15)



研ぐ(刀剣研磨)

保持者ですので、本物の技術をじっくりと見て、お話を聞いてください。それだけで普段知ることのできない「職人の世界」を垣間見ることができると思います。

実演概要

今回は、3日間にわたって行われ、それぞれ6〜7人の実演が行われます。

5日は、子供たちも大好きで、見ていっただけで楽しくなる飴細工や木場を抱えた江東区にあって、木に彫刻を施す木彫刻、そして建具など地域的な特色を示すもの。また、クリスタルガラスの細かいカット技術で、光の魅力を引き出す江戸切子、着物には欠かせない紋章を描く上絵技術、掛け軸や屏風などを飾る表具、そして象牙を丹念に削り落とし、三味線の駒を製作する象牙細工です。



細かい彩色を施す(手描友禅)



襖の柵や椽を作る(襖椽)

6日は、竹を割って編む簾や建具(組子)・木彫刻、さらに微妙な色合いを作り、生地を染める無地染や手描友禅。また、染織補正とは着物や洋服・ネクタイなどに付着したシミをとる技術です。一度お話を伺ってみてはいかがでしょうか。そして、石工は石碑・お地藏さんなどをはじめ、石を刻む技術で、やはり寺社の多い江東区の特徴的な特色を示すものです。

7日は、さまざまな模様を型染する更紗染や江戸切子、お茶の道具を専門に製作する指物、さらに襖の椽を製作する技術をはじめ、この日は砥石を使った刃物の研ぎを見ることが出来ます。庖丁製作は、複数の種類の庖丁を研ぎ、刀剣研磨は刀の研ぎを行います。いずれも見事な磨き上がりで、仕上がったものは、芸術的に研ぎ澄まされたものとなります。

以上、多少は参考になったでしょうか。興味をもちましたら、ぜひご来場ください。

会場は国登録有形文化財の 深川東京モダン館 です。

今回の伝統工芸展は、深川東京モダン館が会場です。

モダン館は、関東大震災の復興事業の一環として建設された歴史的な建造物です。当初は、「東京市深川食堂」の名称で、多くの人々の食事を賄いました。しかし、長い時間を経た現在、東京の近代化を伝える、大変貴重な建物となりました。

そのような昭和初期の建築デザインを残す、貴重な建物モダン館で、伝統工芸展は新たな一步を踏み出すことになりました。1・2階のフロアーをすべて使用し、さまざまな技術が公開されます。

伝統工芸展の見学とともに、レトロな雰囲気漂うモダン館をお楽しみください。

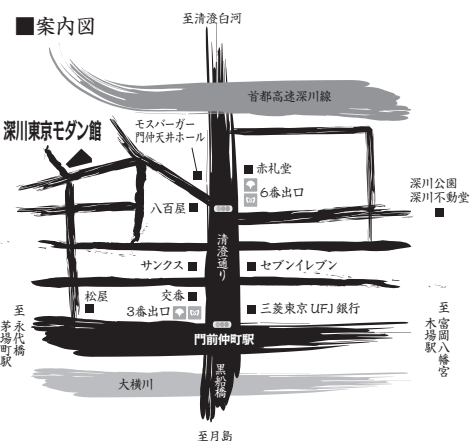
東京都優秀技能者として認定

木工(建具)

友國 三郎氏



区登録無形文化財(工芸技術) 保持者の友國三郎氏(三好2)は、昨年11月に優秀技能者として表彰されました。今後とも、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



深川東京モダン館

俳文学者の写した「奥の細道」

—久富哲雄のファイレンダーを通して—

4月25日(日)まで

昨年は、芭蕉の「奥の細道」の旅から320年ということで、各地で様々な催しが開かれてきました。芭蕉記念館でもいくつかの記念事業を開催し、多くの参加者を見ました。その集大成として、現在、記念館では俳文学者久富哲雄氏が撮影された「奥の細道」の写真パネル69枚を展示しています。

久富氏は、大正15年(1926)山口県に生まれ、平成19年(2007)、



「草の戸も」句碑(江東区)

81歳で永眠されました。その間、東京大学文学部大学院を修了され、都立目黒高等学校教諭を経て鶴見大学女子短期大学部教授になられています。専門は、近世俳文学を専攻。主な著書に『おくのほそ道雑攷』『おくのほそ道の旅』『おくのほそ道全訳注』など多数。

特に昭和62年3月27日に刊行されたサンレキシカシリーズ40『奥の細道』を歩く事典』は、平成6年6月に改定加筆のうえ『奥の細道ハンドブック』として出版され、以降、版を重ねています。この本の人気の秘密は、著者自身が長年に亘って歩かれてきた「奥の細道」の行程を丹念に記録した手書きマップが各所に付され、細かい配慮が施された一書だからかもしれません。

今回の写真パネルは、久富氏が平成13年11月27日〜12月1日に鶴見大学国文科主催で『おくのほそ道』写真展として公開しました。平成19年3月に同氏からそのパネル130枚を寄贈いただき、そのうちの69枚を展示するもの



殺生石(那須町湯本)

です。

展示では、芭蕉の生誕地の三重県伊賀市にある「俳聖殿」・近鉄上野市駅前にある「芭蕉像」から始まり、「奥の細道」の発端となった江東区「草の戸も」句碑、そして旅先々の日光から以北、平泉、さらに日本海に移り、秋田、新潟などを経て大垣に至る史跡・句碑・情景などの写真パネルで構成しています。

『おくのほそ道』研究に生涯を捧げた俳文学者久富哲雄氏の残された写真パネルと、自身の解説文を加え、その行程を歩んでみるのも楽しいことでしょう。

このほか、江戸時代に刊行された様々な『おくのほそ道』の木版本なども併せてご覧いただけます。この機会に是非お立ち寄りください。

(横濱文孝)



大垣船町湊(大垣市)

芭蕉記念館

開館時間

午前9時30分〜午後5時
(4時30分までにお入りください)

展示室休室

第2・4月曜日(祝日の場合は翌日)

入館料

大人100円 小中学生50円

交通

都営地下鉄新宿線大江戸線
森下駅下車 徒歩7分

問合せ

江東区芭蕉記念館
江東区常盤1-6-3
☎03(3631)1448

平成21年度

中川船番所資料館 収蔵資料展

平成22年1月19日～3月22日

中川船番所資料館では、これまでに収集した資料を中心に「収蔵資料展」を開催します。ここで、展示資料のいくつかをご紹介します。

写真1は、青銅製の釣針で、五〇〇～六〇〇年前にタイで使用されていたと伝えられています。他にも、鹿の角や動物の骨から造られた釣針があり、釣針を使った釣りの歴史が感じられます。

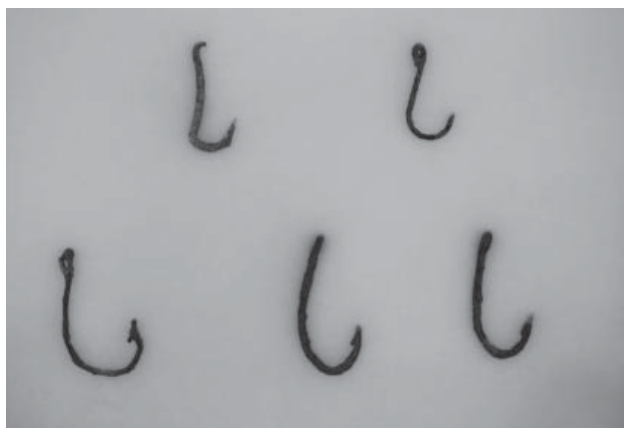


写真1 青銅製の針

写真2は、当館で開催している「美術魚拓製作実演」の講師でもある美術魚拓サークル「竜の子会」のメンバーが拓したカラー魚拓です。ヘラブナやスズキ、アジなどを題材にした美しい作品を一度に見ることが出来ます。

今年度の寄贈資料から、昨年五月に逝去された四代目竿治（糸賀一隆氏・写真3）を追悼し、和竿の作品や愛用していた製作道具を公開します。



写真2 ヘラブナのカラー魚拓



写真3 四代目竿治（糸賀一隆氏）

その他、船に関する収蔵品のコーナーとして、江戸の河川を往来した和船、近代の関東内陸の水上交通網を支えた蒸気船、旧中川沿いの工場へ化学薬品を運んでいた硫酸船（写真4）の模型を一堂に集めます。

また、先日寄贈された慶応二年（一八六六）の「中川番所通行手形」や「日本橋魚市真景全図」（歌川広重画）の錦絵なども展示します。

この機会に、普段は見ることができない当館の貴重な収蔵品を、ぜひご覧ください。
（鈴木将典）



写真4 硫酸船模型

中川船番所資料館 案内図



期 間 平成22年1月19日（火）～3月22日（月・祝）

観覧時間 午前9時30分～午後5時
（4時30分までにお入りください）

入館料 大人200円・小中学生50円

交 通 都営地下鉄新宿線東大島駅（大島口下車）徒歩5分

問 合 せ ☎3636-9091

HPアドレス <http://www.kcf.or.jp/nakagawa/>

千田遺跡 武家屋敷跡を掘る！

今回、千田遺跡（区遺跡登録番号16）の発掘調査の成果についてご紹介します。調査地点は千田22番地に所在し、（仮称）千田保育園の建設に伴い、平成21年1月に試掘調査を行ったところ、江戸時代の遺構・遺物を確認しました。このため、同年2～3月に発掘調査を行いました。

土地の歴史について

調査地点一帯は、もともと海でしたが、近江屋（千田）庄兵衛と井籠屋万蔵が享保8年（1723）～10年



本所深川絵図（部分）



発掘作業風景

（1725）の間に埋立てを行い、千田新田として造成されました。その後、千田新田の一部は薩摩国鹿児島藩・日向国佐土原藩の両島津家の屋敷地となりました。寛政9年（1797）には一橋徳川家が両島津家や周辺の土地を含めた十萬坪と呼ばれる一帯を抱屋敷とし、幕末まで存続しました。一橋徳川家の屋敷は、絵図等によれば屋敷、畑作地などが混在していましたが、調査地点は鹿児島藩島津家・一橋徳川家が屋敷として使っていた中心域に該当するようで、十一代将軍である徳川家

斉が狩猟の際に「千田御屋敷」に立ち寄り、昼食をとったこと等の文献が残っています。



遺跡全景（北側）



遺跡全景（南側）

発掘調査の成果について

地表面から25m前後の深さで江戸時代の遺構面を確認しました。遺構は11基が発見されました。ほとんどの遺構からは生活で使用した陶磁器類を中心とした遺物が多く出土しています。遺物の検出状況などから、不要になった日常雑器などを捨てるため、屋敷内の空閑地に穴を掘り、一括して埋めたものと推定されます。なお、陶磁器類は19世紀前期頃までに生産されたものがほとんどであるため、鹿児島藩島津家から一橋家に所有が替わった後、捨てられたものと推定されます。

遺跡から出土した遺物の総量は、コンテナで140箱を数えます。内訳は、肥前系（現在の佐賀県）の茶碗、瀬戸・美濃系（現在の愛知県・岐阜県）の茶碗や徳利など江戸から遠く離れた場所で作られたものが主体で、そのほか、屋根瓦、当時の子どもが使ったと思われる土製の泥面子、箸・椀・下駄などの木製品、銭貨（寛永通宝）、キセルなどの金属製品、カキやサザエ、アワビなどの貝殻です。

調査成果等の公開等について

調査中である3月8日に千田地区を対象に遺跡見学会が開催されました。当日は230名の方が訪れ、住まわれ



4号遺構
(埋まっていた土の中には遺物や有機物質が多く入っていました)

(文化財専門員 野本賢二)

現在、平成20年12月～21年1月に発掘調査を行った雲光院遺跡(区遺跡登録番号15)とともに、平成22年3月の刊行に向けて発掘調査報告書を作成中です。報告書刊行後には区内の博物館施設や図書館に収蔵される予定ですので、興味のある方はご覧になってください。

刊行後は、千田遺跡の出土品を中心とした区内の埋蔵文化財の展示を平成22年4～5月に開催する予定です。で、事前に広報等でお知らせします。



出土遺物(磁器・陶器・土器・銭貨)



遺物出土状況



出土遺物(貝類)



出土遺物(漆器・木製品)



遺跡見学会風景



出土遺物(ウリ科種子)

江東今昔(8)



昭和 29 年頃の南砂 1 丁目 (3 枚の写真を貼り合わせてあります)



ほぼ同じアングルから見た現在の様子

この写真は、昭和 29 年頃に清洲橋通りに面した南砂の商店（現在の南砂 11-10 付近）を映したものです。南砂にお住まいの村島晟介氏からご寄贈いただきました。村島氏が、当時の南砂町 1 丁目を全て写真に残しておこうと撮影されたものの中の一部です。写真左端のお宅の前が、現在の南砂 1 丁目のバス停のある場所です。

今の写真と比べると、角の建物はコンビニエンスストアになっていますが、道や建物、電信柱の位置などは 50 年以上経った今でもあまり変わっていないことがわかります。また、写真に写っている製麺所や食堂、薬局は今も同じ場所で営業されています。

一方、道路を走る三輪トラックや背後に見える工場の排煙は、今ではほとんど見られなくなったものです。

（文化財専門員 中西 崇）

開炉裏はた （旧大石家日記）⑩

東京文化財ウィーク 2009 東京 8 区文化財古民家めぐりを終えて

この秋開催された「東京文化財ウィーク 2009」の参加事業として、今年初めて「東京 8 区文化財古民家めぐり」が行われました。文化財の古民家を所有する、足立区・板橋区・江戸川区・北区・杉並区・世田谷区・目黒区・江東区の 8 区で、古民家の特徴や暮らしぶりについて解説する日を設定し、それぞれの地域性と古民家の関わりを知ってもらおうというものです。

旧大石家住宅では、10 月から 11 月のうちで 3 日間の解説日を設け、うち 2 日間は、江戸川区の一之江名主屋敷（江戸川区春江 2）との共同解説会として、両区の住宅を見学していただけるように設定しました。一之江名主屋敷は、江戸時代の初めに開かれた一之江新田の開発者田島家の屋敷で、江戸時代のままの敷地ごと保存されています。名主屋敷は、公的なスペースも備えるため、玄関や座敷など格式ある造りになっていますが、一方で、同じ中川流域の民家として水害への対応など、旧大石家と共通する部分も見られます。

3 日間で約 90 名の方が参加され、江東区をはじめ、区外からもたくさんの方がいらっしゃいました。参加した方々

は、古民家のもつなかしく温かい雰囲気を楽しむと同時に、住宅を支える梁や構造を見て、改めて職人仕事のすごさに感動したという言葉も聞かれました。

ひとくちに古民家といっても、職業や周辺の環境、生活様式によって規模も構造もさまざまです。ひとつひとつの古民家をよく知ること、地域と地域のつながりが見えてくるようです。

（文化財主任専門員 向山伸子）



訂正とお詫

前号の下町文化（247号）でお知らせした「新春民俗芸能の集い」の開催日に誤りがありました。正しくは平成 22 年 1 月 17 日（日）です。訂正してお詫びいたします。なお、開催は正午、開演は午後 1 時です。会場は江東区文化センターホール（東陽 4-11-3）、入場は無料です。